

修士論文（要旨）

2010年1月

女性定年退職者は退職後の生活において  
職業経験をどのように意味づけているか

指導 杉澤秀博 教授

老年学研究科

老年学専攻

208J6005

徳田直子

## 目次

<b>1. はじめに</b>	<b>1</b>
1) 研究の背景	1
2) 先行研究のレビュー	1
3) 研究の目的と実践的意義	3
<b>2. 研究方法</b>	<b>4</b>
1) 調査対象	4
2) 調査方法	4
3) 分析方法	4
4) 倫理上の配慮	4
<b>3. 結果</b>	<b>5</b>
1) 全体ストーリーライン	5
2) 仕事を通して得た財産	6
3) 仕事の達成感	6
4) 経済的基盤	7
5) 職場に心を残した生き方	7
6) 職場と別の世界での生き方	8
<b>4. 考察</b>	<b>10</b>
1) 生活適応プロセスにおける男性定年退職者との違い	10
2) 今後の課題	11

文献

表と図

## 1. はじめに

### 1) 研究の背景

定年退職後の生活に関する研究はかなり行なわれているが、男性に関するものがほとんどであり、女性に関しては「今後研究の必要あり」と指摘はされているが、先行研究があまりない。女性の教員や看護師であった人の退職後の生活に関する調査や研究が数本報告されている程度である。これには、男性と比較して女性の退職者が少数であることが関係していると思われる。

2002年の定年退職者全体に占める女性退職者の割合は8.4%と1割にも満たない。しかし、女性の労働市場における地位の変化に伴い、女性定年退職者は今度増加するであろうことが予想されることから、今後は、女性における定年退職後の生活に着目した研究も重要性を増していくであろう。

### 2) 研究の目的

女性定年退職者を対象とした質的調査に基づき、定年退職後の生活（就業、家庭、地域、ボランティア、趣味など）の形成プロセスを、特に定年退職前の職業・家庭・地域生活との関連において分析することを目的とする。本研究によって、今後増加するであろう女性の定年退職者が、退職後の生活にどのように適応していくのか、その問題提起と解決への手がかりを提供できる。

## 2. 研究方法

### 1) 調査対象

定年退職(早期退職を含む)の経験のある59歳から68歳の老齢厚生年金を受給している女性10名(1名は受給予定者)である。対象者の抽出は、筆者のネットワークを通じた機縁法によって行った。

### 2) 調査方法

調査方法は質的調査であり、半構造化された質問紙を用いた個別面接法で実施した。定年退職前後では職業だけでなく家庭や地域など広範囲にわたる生活に変化が起これ、さらにそれらが複雑に影響しあいながら、定年退職後の生活が形成されている。このような複雑なプロセスを有する現象を解明するには、質的な調査が妥当であると考えた。

質問項目は、①現在の生活(趣味・学習活動、家庭、地域活動・ボランティア、楽しみ・いきがい、健康状態・経済状況など)、②定年前の仕事・職場について、③現在の生活に現役時代の職業、家庭、地域の生活がどのような影響を与えているか、などである。

分析には修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた。特に定年退職前の職業・家庭・地域での生活との関連に焦点を当て分析を行なった。

## 3. 結果

現在の生活は、【職場に心を残した生き方】と【職場と別の世界での生き方】に大きく区分された。【職場に心を残した生き方】とは、定年後も〔現役時代の人間関係〕を保ちながら生活する人、〔経験を生かした仕事を継続〕する人、〔仕事に代わる生きがい探し〕をしている人が含まれている。【職場と別の世界での生き方】とは、定年後において、〔新たな人間関係を作る〕〔趣味に生きる〕〔自由な時間を楽しむ〕といった暮しを送っている人たちである。

このような現在の生活に対して、職業経験がどのような意味を持っていたかについては、〔人間関係〕と〔技能の習得〕で構成される【仕事を通して得た財産】および【仕事の達成感】が大き

な意味をもっていた。さらに、厚生年金による安定的な【経済的基盤】も大きな役割を果たしていた。すなわち、職場に心を残すか、残さないかに関係なく、いずれの生活においても【経済的な基盤】がそれらを支えるものであった。【職場と別の世界での生き方】を選択した人では、職業経験に対しては【仕事の達成感】を感じている人であり、職業に対してやることはやった、という思いから職業への執着心がほとんどなかった。他方、【職場に心を残した生き方】については、【仕事を通して得た財産】を何らかのかたちで退職後の生活に生かそう、という意識が働いていた。

以上のように今回の調査対象者は 30 年以上同じ会社（1 名は数社で勤務経験あり）で働いた経験をもっており、「職場」はそれぞれの人生に大きな意味を持っていた。さらに、【職場に心を残した生き方】と【職場と別の世界での生き方】は対立するものではなく、個人の中でも退職後に複数の活動に従事している人がおり、活動によっては【仕事を通して得た財産】を生かしたものであったり、【仕事の達成感】から【職場と別の世界】ということを使い分けている場合もあった。

#### 4. 考察

##### 1) 生活適応のプロセスにおける男性定年退職者との違い

###### (1) スムーズな定年後の生活適応

本研究において、女性の定年退職者は自分の力で手に入れた心身の自由を思い存分楽しんでおり、職業経験で得た「人間関係」「技能」などは楽しむためのツールの存在となっていることが明らかになった。男性は多くの先行研究に述べられているように、仕事一辺倒の生活から定年後の生活に移行するにはかなりの努力を要しているが、女性はすんなり適応し、自然体で楽しんで暮らしている。この結果は、先行研究の知見を支持するものであった。加えて、ほぼ全員が長年の勤務により退職後の経済基盤が保障されたと述べているように、生活適応を考える際に重要な点は経済的基盤であることも明らかとなった。しかし、経済的基盤の重要性については男性定年退職者とも共通であるものであった。

###### (2) 楽しみの源泉

本研究では、退職後の生活について『毎日元気に楽しく、友達との付き合いを楽しんでいければ満足』と答えた人がほとんどであり、インフォーマルな活動に楽しみを見出していた。他方、男性については、「これまで会社の中で培ってきた能力や実績を活かし、職業人としての自分の延長線上に地域人としての自分を見いだしている」など、フォーマルな活動に楽しみや生きがいを見出していることが先行研究で明らかになっている。

##### 2) 今後の課題

本研究では、定年退職した女性 10 名を対象としたが、この人たちは首都圏に暮らしており、大変限られた対象であった。そのため、この結果を一般化することは難しい。さらに、健康状態は良好な人であったため、加齢に伴い対象者に健康不安が出てくれば、適応のあり方も異なってくるであろう。異なる対象を分析することで、知見の妥当性を検証する必要がある。加えて、コホートによる違いも検証する必要がある。近い将来、団塊世代、また雇用均等法の下で働いてきた女性が定年退職を迎える。このような人は、職業や家庭に対する価値観は本研究で対象とした人とは異なっていると思われる。

<文献>

- 1)前田信彦「定年退職への移行と生活の質」－ジェンダー比較分析－『立命館産業社会論集』  
第41巻第1号 124-126 2005年
- 2)片桐恵子「女性にとっての定年退職研究 一定年までの就業を支えるもの」『平成10年年  
度 (財) 東京女性財団研究活動助成事業報告書』13-14
- 3)グループ・サルビア「大阪の定年退職をした女性たち」調査報告～働き続けた女性の問題～  
6-15 1996年
- 4)杉澤秀博 柴田 博 「職業からの引退への適応－定年退職に着目して－」  
『生きがい研究』 12-91 (財) 長寿社会開発センター 2006年
- 5)佐藤眞一「企業従業者の定年退職後の生きがい－集団面接による質的分析－」  
『明治学院大学論叢 心理学紀要』11号 42-46 2001年
- 6)袖井孝子「定年退職－家族と個人への影響」『老年社会科学』10巻2号、64-79  
1988年
- 7)木下康仁 『ライブ講義M-G-T-A－実践的質的研究法 修正版グラウンデッド・セオリー・  
アプローチのすべて』弘文堂 2007年
- 8)厚生労働省雇用均等・児童家庭局編「女性労働の分析 2005年 中高年女性の就労実態と意  
識」 (財) 21世紀職業財団
- 9)西村純一「自由時間の使い方からみた社会参加といきがい」『シニアの社会参加と生きがい  
に関する事業』(財) 年金シニアプラン総合研究機構 26 2009年
- 10)根岸貴子「自立している男性高齢者の定年後の生き方」桜美林大学大学院国際学研究科老年  
学専攻 修士論文 2009年1月
- 11)篠田さやか「大都市における定年退職ホワイトカラー男性の地域社会への適応プロセス」桜  
美林大学大学院国際学研究科老年学専攻 修士論文 2008年7月
- 12)杉澤秀博「老化の社会学説」編集代表 柴田博『老年学要論』建帛社 47  
2007年
- 13)柴田 博「サクセスフル・エイジング」編集代表 柴田博『老年学要論』建帛社  
55-56 2007年
- 14)ロバート・C・アッチェリー／アマンダ・S・ハルシュ 翻訳者 宮内康二  
『ジェロントロジー～加齢の価値と社会の力学』きんざい 269 2005年
- 15)Adams,Gary A. *Retirement Reasons,Processes,and Result*. New York: Spring Publish  
Company,2003
- 16)Calasanti,Toni M. “Gender and Life Satisfaction in Retirement An Assessment of the  
Male Model,” *The Journals of Gerontology*;51.Jan,1996.
- 17)Jewson,Ruth Hathaway. “AFTER RETIREMENT: AN EXPRORATORY STUDY OF  
THE PROFESSONAL WOMAN,” *WOMEN’S RETIREMENT Policy  
Implications of Recent Research*. Beverly Hills, CA:Sage Publications, 169-181 1982.
- 18)Johnson,C. K. & Price-Bonham,Sharon. “Woman and Retirement: A Study and  
Implication,” *Family Relations*,380-385, 29,1980.
- 19)Kaskie,Brian. “Civic Engagement as a Retirement Role for Aging Americans,”*The  
Gerontologist*,vol 48,No.3,2008.